



第 13号

Email izumi-j@kanazawa-city.ed.jp



泉中だより

令和7年7月10日(木)

3年生が「幽玄の世界」を体験しました

7月9日(木)、第76回観能教室に本校3年生が参加しました。鑑賞に先立って行われた質問コーナーでは、泉中・長町中学生徒を代表して、本校の吉野泉美さんが、金沢能楽会・笛方の後藤尚志さんにインタビューをしました。笛の実演もあり、生徒たちはとても興味深そうに、話や演奏に聴き入っていました。その後、狂言「附子」と能「羽衣」を鑑賞し、生徒たちは日常の忙しさをしばし忘れて、ゆったりと幽玄の世界に浸っているようでした。



「観能教室」

：昭和24年に始まり、今年で76回目という歴史のある教室。金沢市の中学3年生を対象に、金沢の伝統文化の良さに触れる機会として、受け継がれている。

【生徒の感想より】

- ・「あおげ、あおげ」が繰り返されているところが面白かったです。狂言は足音がドタバタしていたのに対し、能はすり足で動いているという違いがはっきりしていて面白いと感じました。演者だけでなく、楽器を使った人たちの強弱も能楽の見所だと思いました。音楽の授業で見た所は理解できたので良かったです。「疑いは人間にあり」が心に残りました。
(3-1 打田 愛々さん)

- ・私は狂言も能も初めて見たけれど、音楽や話し方、舞などであの世界に引き込まれていく感じがして、とても不思議で貴重な体験でした。狂言では面白さがとても伝わってきて、能では見ないと味わえない奥深さを感じることができて良かったです。さまざまなもので、その情景を想像することができて、本当に素晴らしいものだなと思いました。
(3-2 花岡 美岬さん)

- ・今回、狂言と能を実際に観て、日本の文化を改めて誇らしく思いました。狂言では面白さを生み出すために、動きやセリフの言い方に工夫があり、能では衣装も含め舞台に響く楽器の音や声がきれいでした。特に天人は立ち姿のみでも神々しい雰囲気があるように感じたので、声も加わるとより一層その雰囲気が増し、「すごいな・・・。」と非常に驚きました。
(3-4 安井 祥さん)